

# 家庭で育む「生きる力」

子どもたちが、変化の激しいこれからの社会を生きるためには、確かな学力、豊かな心、健やかな体という3つの力をバランスよく育てることが大切です。

自ら考え、正しく判断し、行動できる四街道の子を育てるために、学校での授業や活動の1つ1つを充実させることはもちろんですが、ご家庭においても次に挙げるような取り組みを行い、学校と家庭が力を合わせて、子どもたちの生きる力を共に育てていきましょう。



## 毎日必ず家庭学習を

学習意欲を高めるために

- 生活のリズムを整えましょう。
- 学ぶ雰囲気と環境をつくりましょう。
- 努力を認め、励ましましょう。
- ニュースなどを話題に、お子さんと対話をしましょう。

学習時間のめやす

- 小学生・・・学年×10分
- 中学生・・・学年×1時間



**基礎基本は  
くり返して**

ドリルなどで反復練習



**学びにつながる  
様々な体験を**

基礎・基本の活用

**確かな学力**

**豊かな心 健やかな体**



**あいさつは  
心と心の潤滑油**

大きな声と、  
ていねいな言葉で。



**読書で心に栄養を**

読んでいる本を  
親子の話題に。



**他人を思いやる心と  
感謝する心**

人とのかかわりの中から  
豊かな心の育成を。



**早寝早起き  
朝ごはん**

規則正しい生活リズム



**日常生活の体育化**

外遊びや体を動かす習慣



**健康を意識する毎日を**

生活習慣や栄養のバランスを  
意識した生活

## 《参考》

3年間にわたる全国学力・学習状況調査の結果やその分析により、明らかになった主な事項は、次の通りです。(抜粋)

- 家で学校の宿題をする児童生徒の方が、正答率が高い傾向が強く見られる。
- 読書が好きな児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 携帯電話の使い方について、家の人との約束を守っている児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 朝食を毎日食べる児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
- 家の人と学校での出来事について話をしている児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

(出典)国立教育政策研究所ホームページ  
「平成21年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」

また、文部科学省より研究を委託されたお茶の水女子大学による追加調査や分析で、次のことも明らかになりました。

- 親の子どもへの接し方や、親の行動も、子どもの学力と有意に関係している。例えば、親がニュースをよく視聴したり、新聞をよく読むなど、親に学習習慣が確立しているほど、親の収入に関係なく、子どもの正答率が高い傾向が見られる。
- 不利な環境にある子どもの底上げに成功している「効果のある学校」を選び、その特徴を探ったところ、そうした学校には、学校における「学習規律の徹底」「学校と家庭・保護者との関係」や、子どもの「学習習慣」「自尊感情」「規範意識」「社会や地域への関心」等に特徴が見られる。